

【浪江町営農者向け鳥獣被害アンケート結果(概要版)】

【目的】

町内の鳥獣による農作物被害の実態、被害の対策における課題整理を目的として、鳥獣防護柵申請者を対象にアンケートを実施した。(28/49名回答)

【結果】

- ・イノシシ、ニホンザルによる被害が顕著であり、ニホンザルについては7～10月に被害が集中していた(図1, 2)。
- ・関心のある対策では、藪刈りやニホンザルの追い払いが多くあった(図3)。防護柵設置後の不安については、電気柵周りにおける除草作業の効率化を求める声が多かった(表1、図4)。

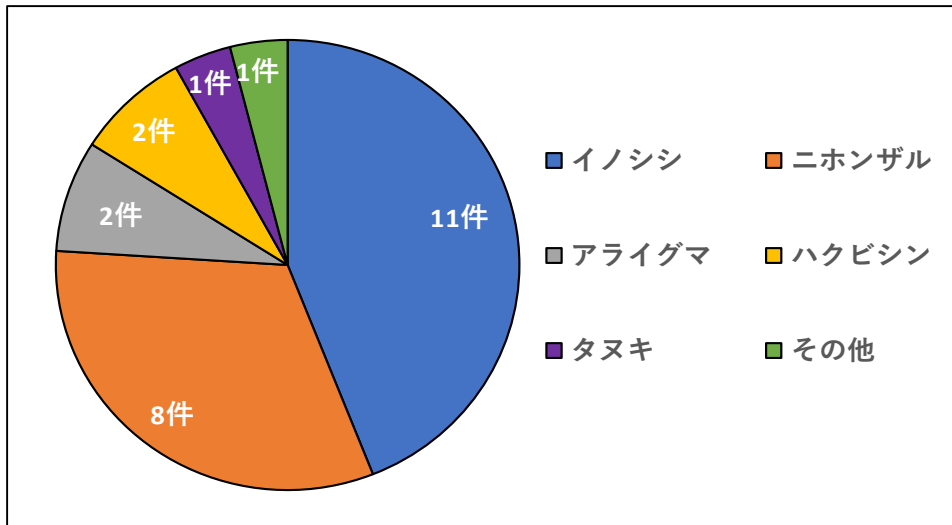


図1: 獣種別農作物被害件数※複数回答可
イノシシとニホンザルによる被害が顕著であった。

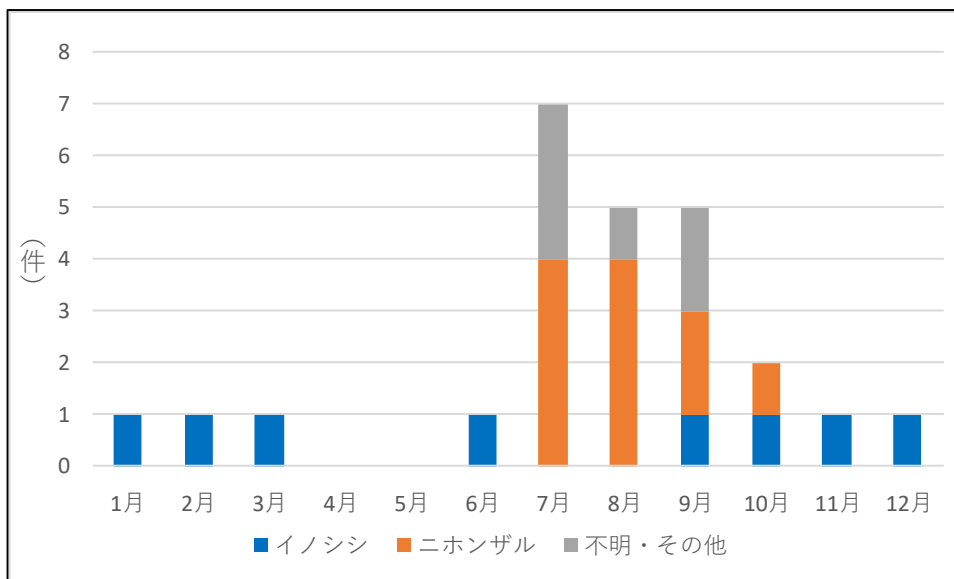


図2: 月別農作物被害件数

- ・ニホンザルによる被害は7～10月に集中している。この時期は100頭ほどの群れが、請戸川以北を頻繁に利用する時期(7～12月)と重複している。
 - ・ニホンザル被害のほとんどが請戸川以北の地区であった。
- ※令和3年11月に県道35号線沿いを中心に70頭ほどのニホンザルの群れを確認しているため、今後は請戸川以南でも注意が必要。

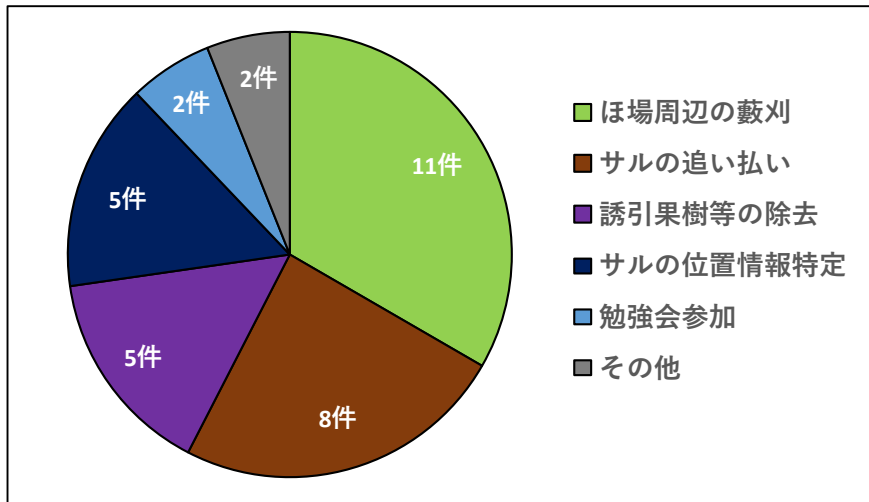


図3: 興味のある対策 ※複数回答可
ほ場周辺の藪刈が多く、続いてニホンザルの追い払いが多かった。

表1: イノシシ・ニホンザルに対する防護柵の利用状況

	電気柵のみ	WM柵のみ	複合柵のみ	電気柵+WM柵	電気柵+複合柵	WM柵+複合柵	3種全て
イノシシ	2	1	2	2	3	0	1
ニホンザル	0	2	1	3	3	0	1

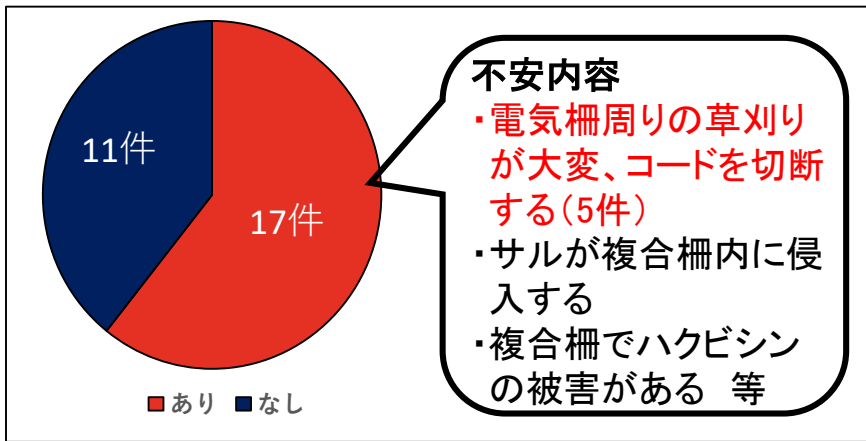


図4: 防護柵設置後の不安の有無と不安内容
不安を抱える農家が半数以上であり、電気柵の管理に関する不安が多くあげられた。

【所感】

イノシシによる被害を受けた農家の7割は電気柵を使用しており、設置後の不安に「電気柵周りの草刈りが大変」という意見が多かったことから、草刈りの効率化が大きな課題と考える。ニホンザル被害は複合柵を利用していない農家からも見受けられたので、被害程度に応じて複合柵化を提案するとともに、複合柵で被害があった農家については侵入経路(近隣の高い障害物や電気柵の漏電等)を特定し、周辺環境の整備を提案する必要があると感じた。

【アンケート結果を踏まえた対策検討】

- 電気柵周りの除草作業の効率化
 - 除草剤を使用した作業効率向上の効果検証を実施
- ニホンザル対策用複合柵内へのニホンザルの侵入対策
 - 効果的な柵施工管理についての助言およびその周知の徹底、勉強会の開催